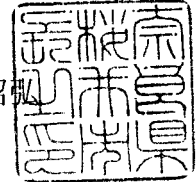


桜 企 第 3937 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

桜井市長 谷奥 昭



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付国道企第37号にて国土交通省道路局長から依頼が
ありました件について、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

奈良県 桜井市

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1. 桜井市の現況

桜井市のように市域全体の約 60%が中山間地域を有する地方都市にとって『道路』は、日常生活や経済、社会活動を行ううえで欠くことのできない、最も基礎的な社会基盤として主要な施策のひとつとして、道路特定財源を活用して整備を図ってきているところです。

骨格を成す国道や県道、都市計画道路の幹線道路については、『なら・半日交通圏道路網構想』により整備促進に尽力いただいているところですが、集落からそれらの道路へ連絡する市道は、道路幅員 4.5m 未満の狭隘な道路が全体の 2/3 を占めております。特にこれらの道路は、各集落へ連絡する欠く事のできない生活道路で、非常に強い整備の要望があります。しかしながら、厳しい財政状況のなかでの対応には苦慮しております。現地の実情にあった整備、例えば一律に拡幅するのではなく待避所を効率よく配置して整備を行うなどの工夫をしながら行っているところであります。

地方分権の流れの中で三位一体改革が進められ、地方の役割が重要になっていく中で、市が行う仕事は増えてもそれに伴う財源が増えない状況があります。財政力の弱い本市にとっては、道路整備にかかる財源をどのように確保するかということは頭の痛い問題です。特に遅れている中山間地域の道路整備、骨格と成す幹線道路へ連絡が必要な地域の住民にとって日常生活を行ううえで欠くことが出来ない狭隘な道路の整備を引き続き着実に推進するための安定した財源の措置をお願いいたします。

2. 道路行政に望む意見

A. 道路の整備

桜井市では現在、奈良県中央部における東西交通の機軸を担う中和幹線が平成 22 年春の全面供用開始をめざし、また、関連道路も着実に鋭意事業推進中でありますことから、観光振興や経済活動などに大いに寄与することが期待されております。

今後は、さらに新しい広域的幹線道路である自動車専用道路を名阪国道一本松 IC 付近から中和幹線脇本地区を經由して高田バイパス～南阪奈道路に接続できる道路(別紙地図①)の建設を熱望しております。

この道路が完成しますと、関西新空港・大阪市内・名古屋市内と直接、自動車専用道路でつながることになれば、本市の経済効果・観光振興に計り知れない効果が期待できます。また、名阪国道のバイパス的役割も果たし、冬季における降雪・路面凍結や交通事故などによる交通障害や災害時の輸送路確保にも期待できます。

また、この道路の関連事業として、国道 166 線女寄峠付近より中和幹線脇本地区までのアクセス道路の新設(別紙地図②)、また、主要地方道桜井吉野線倉橋地区より国道 166 号線下り尾地区付近までの間の道路(別紙地図③)を要望いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

奈良県 桜井市

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

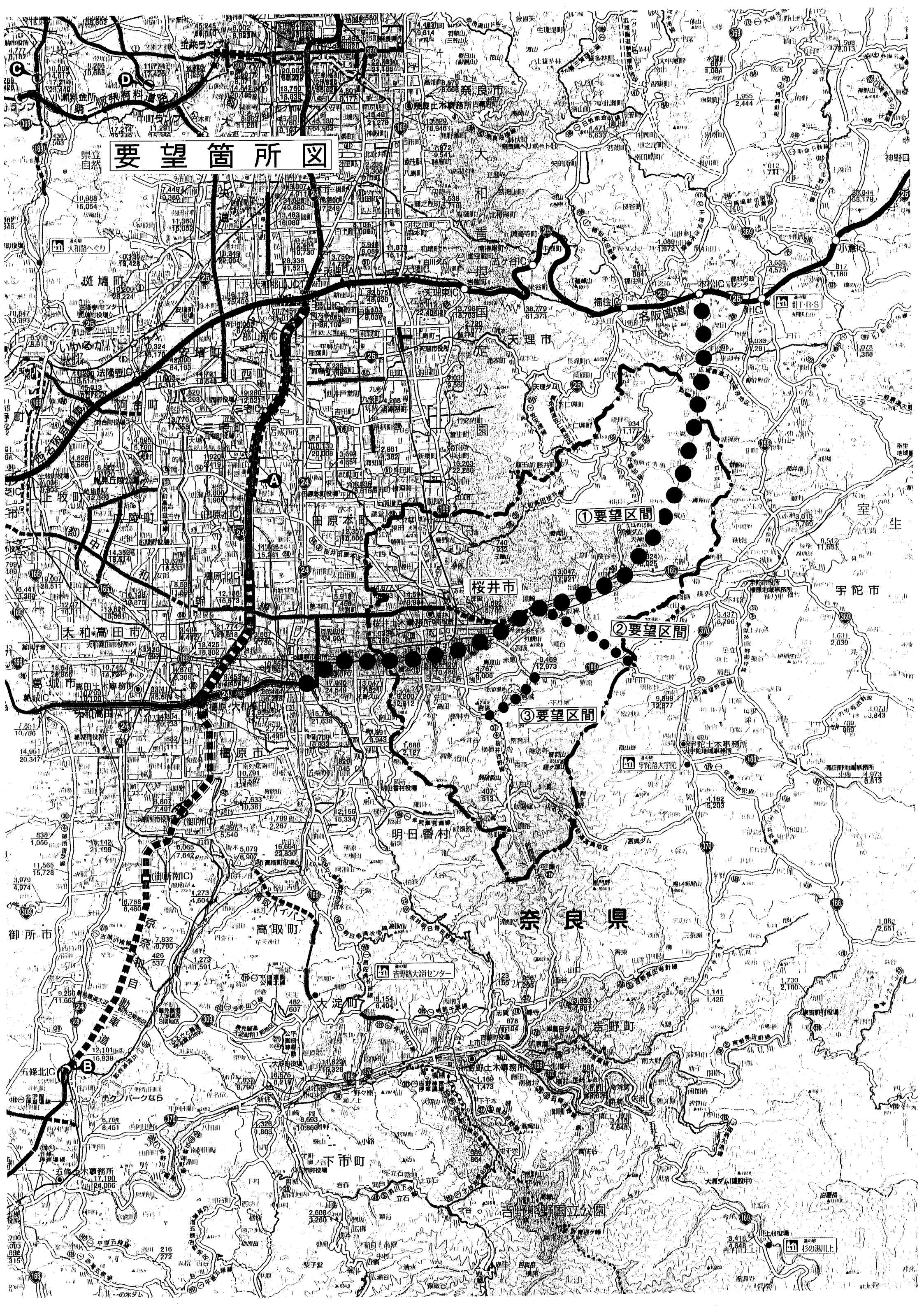
B. 既存道路の管理について

道路の管理については、限られた担当職員の他、日常より市職員が一丸となってパトロールを行い、安全に供用できるようつとめているところです。既存のストック(橋梁やトンネル等の重要構造物)が急速に高齢化している中で長寿命化を図り、改築(橋梁の架け替え、構造物の再構築)・修繕に係る費用の縮減を促進し、合わせて耐震化、対荷力の向上を計画的に進めていかなければなりません、これについても安定した財源の措置をお願いいたします。

このように『道路』は、日常の生活に密着しており日々の生活をするうえで切り離すことの出来ない最も基礎的な社会基盤施設であり、その整備は、全市民が長年にわたり熱望してきているところです。

どうか本市の現状をご理解いただきこれら道路の整備について、本市がめざしている『快適で活力のある生活文化都市』の街づくりに格段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

要望箇所図



今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

奈良県 桜井市

○現状

現在の本市の道路状況につきましては、東西軸として三重県・宇陀方面より橿原市・大和高田市方面と結ばれている国道 165 号線又、南北軸としては、奈良市・天理市より宇陀市・明日香村・吉野町方面と結ばれている国道 166・169 号線の3路線の国道と及び 15 路線の主要地方道・県道が骨格となっております。また、市道におきましては、1,144 路線、総延長 443km が生活道路としての役割を担っております。

現状を見ますと、骨格である幹線道路につきましては、朝夕や観光シーズンには慢性的な渋滞が各所で発生し、国道と県道との交差点ですら右折禁止の時間規制が行われている状況であります。又、生活道路である市道につきましても市街地においては、土地区画整理地区などを除き、幅員の狭い道路や幹線への接続などが不十分な箇所が少なくありません。また、中山間地域などにおいては、集落間を結ぶ道路が不足しているのが現状であります。

現在、整備実施中及び計画中路線につきましては、中和幹線が平成 22 年春に供用開始を目ざして整備中であり、国道 165 号線のバイパス的役割が期待されております。また、市南部地域におきましては、吉野方面・明日香方面へ至主要地方道桜井吉野線・多武峰見瀬線が多武峰地区において鋭意整備中であります。また、関連道路として、ふるさと農道は完成して宇陀方面とも接続できております。しかし主要地方道桜井吉野線の多武峰地区から桜井市街地までの区間は具体的な年次計画が示されていない状況であります。また市道整備につきましては、都市計画道路の桜井駅メスリ塚線及び中和幹線に関連した出垣外線が鋭意整備中であります。また、兜塚山之辺線も中和幹線と関連しているため計画立案中であります。

○課題

現在、整備実施中及び計画中路線については、従来の地方道路の拡幅やバイパス的道路であり、中中和・東部地域の都市間を結び交通緩和の一定の役割は果たされると思われます。しかし、桜井市におきましては、これらの道路は大都市を結ぶ大動脈である名阪国道・南阪奈道路・京奈和自動車道等に中和幹線等を経由して隣接都市でしか直接接続されません。

名阪国道につきましては、冬季の降雪や路面凍結、交通事故などによりしばしば交通規制が発生し大渋滞を引き起こしております。また、迂回路として国道 165 号線が利用され渋滞を引き起こしており、これらの渋滞による経済損失は、計り知れないものがあります。

今後は、名阪国道一本松 IC 付近から中和幹線脇本地区を経由して高田バイパス～南阪奈道路に接続できる自動車専用道路の新設及び関連事業として、国道 166 号線女寄峠付近より中和幹線脇本地区までのアクセス道路の新設また、主要地方道桜井吉野線倉橋地区より国道 166 号線下り尾地区付近までの間の道路の新設することにより、中中和・東部地域の農林業の振興・観光の振興・工業の振興・交通体系の確立・広域行政の推進・災害時の輸送路確保などさまざまな効果が期待できますことから国土交通省のご尽力を賜ります様お願いいたします。

今後の道路行政についての意見・提案

奈良県 桜井市

②-2 地域の目指すべき将来像

近年、わが国においては、国際競争の本格化、近隣諸国の急成長、情報化の進展などを背景として、これまで経済成長を担っていた産業転換を余儀なくされ、また、少子・高齢化の進行とあいまって、急激な経済活力が深刻な社会問題となっております。

本市においても、これまで豊かな自然環境のもとで、その特性を活かし、農業という生活活動を通じて良好な田園環境を守り育ててきました。また、本市の風土と深く関わりながら受け継がれてきた木材、素麺、皮革製品やスポーツ用品などの地場産業があり、観光や市民生活と深く関わり発展してきた商業とともに、本市の主要な経済基盤を築いてきましたが、わが国全体の社会構造や産業構造の転換が急激に進む中で、豊かさやゆとりのある市民生活を確保するためには、経済基盤となるこれからの産業を早急に再構築することが不可欠となっております。

今後は、工業の振興として木材、素麺、皮革製品などの地場産業の振興を図り、また、本市の特性を活かしたIT産業・福祉関連産業など本市の環境に適した非公害型、非用水型の新規産業の導入を図ります。

また、観光の振興としては、観光・文化情報発信機能の充実に努め、桜井市が有する邪馬台国時代の纏向遺跡・長谷寺・談山神社・大神神社・など古社寺、宇陀市の重要伝統的建造物群保存地域、世界遺産候補であります飛鳥・藤原宮都とその関連資産群など、隣接する各都市の観光資源を有効に且つ相互に活用し、多くの観光客を迎え、中南和・東部地域の宿泊型観光産業を確立することにより、都市としての『活力』を回復し、この地域の発展・活性化に結びつくものと考えております。

そのようなことから、広域的幹線道路(自動車専用道路と直接つなぐ)整備が最も必要不可欠なものであります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例・期待する効果や評価等)

奈良県 桜井市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・関西新空港・大阪市内・名古屋市内と桜井市が自動車専用道路より繋がれる事業の推進	・経済基盤となる産業の再構築をするうえに最も不可欠ものであります。 本市がすすめている非公害型・非用水型の新規産業の導入・誘致(IT 産業・福祉関連事業)に効果が期待できる。 ・観光の振興についても本市近隣地域との連携した観光産業が確立できることが期待できる。	
・総合的な交通安全及び危機管理強化	・交通安全事業による歩道・バリアフリー化の推進 ・橋梁の長寿命化事業による耐震化の推進	・交通安全事業を積極的に実施し歩行者・通学路・バリアフリー化により事故防止に努めます。 ・計画的に橋梁の長寿命化が図れ、耐震化が図れる災害時の輸送計画路線計画にも重要な役割をはたします。	